

探訪 新ライフスタイル

都市部を中心にライブやショーなどを提供するエンターテインメント施設や、深夜営業の物販・飲食施設など、午後8時から午前3時までの夜遊びコンテンツを充実させようと「ナイトタイムエコノミー」が動き出している。2020年には4000億円市場になるとの予測もある。一方で、多くの地方市町村では人口減少、高齢化の加速、地域経済の停滞傾向に歯止めがかからない。課題解決と活

ライフスタイル

地方創生に夜遊びより朝市



幅広い世代が訪れる青森県八戸市の日曜朝市

地元の食生かし交流の場

性化の大きな効果を発揮す訪れた。3月から12月の毎山のはーモニが奏でる」を語った。おなじみさるのは、ナイトタイムでは週日曜日に日の出と共に9「幸せの食」がある。新鮮ななく「モーニングタイムエ時ごろまで開催され、出店なく「モーニングタイムエ数に300以上で来場者は先日、青森県八戸市にて3万人以上の規模だ。日本最大級の「館鼻岸壁」た豊かな漁業と農業の営みではながんべき朝市」をが共存する八戸には、海と朝市は、観光客相手のお土産市場ではなく、地域住民ウンスが流れ、会場にほほ

「山のハーモニーが奏でる」と語った。おなじみさい手も互いに支え合う姿は、ローカルファースト愛が育つ。売り手は買手に肌身で接することで、欲しいものや不満を知ることができる。買手もどこで探れ、誰にどうつくられたかが分かり、ともに大きな利点がある。競争ではなく、共に新しい価値を創りあげていく「共創」業態は、大手小売り流通チェーンやネット通販では不可能だ。

のたのためのライフスタイルマールケットだった。採れたての素材に、作りたて、売り切れごめんの食が所狭しと並ぶ。炭火焼の焼き魚、揚げたての天ぷらやフライ、手作り漬物や佃煮(つくだ)煮、おでんやきりたんぽ、せんべい汁やラーメン、窯焼きパンやいってドリップコーヒーまで幸せの暮らしが詰まった宝箱だ。

喫茶店オーナーは「朝市でおいしいコーヒーを提供すること、来店につながるの典型だろう。売り手も買

笑みが生まれる。みんなが育てるといふスキームが親近感となるのが、地域コミュニティの面白さだ。純朴で温かいふれあいがある朝市はモノの売り買いだけでなく、地域の人々が交流する朝のほろが身体にエネルギーを取り込め、健全なスタートダッシュが切れる。地域の食資源を生かしたモーニングタイムエコノミーは、地方創生の切り札として期待できるだろう。(商い創造研究所代表 松本大地)